別紙様式①

やまえ農地利用最適化運動

農委会名：山江村農業委員会

１　地域の概要

本村は総面積の約９割を山林が占めており、北部が山麓の丘陵地域で畑作や果樹栽培が営まれているが、北進するにしたがって産地が迫り急峻な山岳地帯となっている。

一方、南部は、比較的平坦でその立地条件を生かした稲麦を主体とする水田地帯において農業生産を展開してきた。

主な特産物は、栗、水稲、葉タバコ、花木苗などであり、肉用牛など養畜業も営まれていることから、飼料作物も栽培されている。近年ではニンニクやたまねぎ、ミシマサイコに加え新たに、ぶどう山椒の栽培農家も増えつつあり農業経営が定着しつつある。

しかしながら、農業従事者については高齢化及び担い手不足の問題が大きく、併せて遊休農地の増加や鳥獣被害の深刻化など農業を取り巻く環境は厳しい状況である。

２　農業委員会の体制

⑴ 農業委員数　８人（うち、認定３人、女性１人）
⑵ 推進委員数　７人（うち、認定１人）
⑶ 事務局体制　２人（専任１人、会計年度職員１人）

３　掲げた目標

担い手への農地の集積面積（新規）　　５ha
遊休農地の解消面積　　３ha

４　目標達成に向けた取組み（運動）の内容

従来の集積活動に加え、「これからの農業」を題材とした、各種農業関係者の意見協議の場を設けるなど、今後の農業ついて真剣に話し合いを行った。

高齢化や後継者不足により、果樹（栗）の栽培についても、維持管理が困難になってきた農地を中心に新たな担い手への利用権設定を推進した。

５　取組みの成果（できるだけ数値を用いながら、具体的に）

集積に関しては、農政担当課等関係機関との連携した取り組みにより、１０ha の農地集積を行うことができた。

６　課題と今後の方針等

⑴ 集積については、農地中間管理機構を介した利用権設定が委員の活動の成果として増えてきている。ただ、農業従事者の高齢化も進み、このような農地所有者からの農地の貸付等の意向が強まることが今後予想され、受けてとなる担い手への農地の利用集積を円滑に進めるためには、担い手の経営農地を面的に集積し、農作業の効率化等を図ることによって農地の引受能力を高め、さらなる規模拡大と経営改善を支援することが必要である。

また、新規就農者や参入者へのフォローアップを推進していく必要がある。

(2) 農地の現状を把握するため農地パトロール等を実施し、土地所有者や農業従事者の意見も聞きながら集積化を進めることを今後も重点活動として行っていく。現状、鳥獣被害農地や遊休農地となっているところについては、引き続き農政担当課等関係機関との協議を重ね、具体的解決方法を検討していく。

▲農業関係者との意見協議の場①

▲新規就農者との意見交換の場②

▲遊休農地解消作業活動（田）

▲耕作放棄地現地確認活動（畑）